

# ワークショップ

## 琉球諸語継承に向けた教育活動の事例報告

企画・司会 青井隼人(東京外国語大学AA研／国立国語研究所)

### 趣旨

琉球列島の言語・方言はいずれも消滅の危機に瀕する少数言語であり、このまま何も対策を講じなければ次世代に受け継がれることは決してない。琉球列島の言語に限らず、こうした少数言語の継承・復興活動に携わることは、少数言語を対象に研究する者の責務であると言われるようになって久しい。残された時間が限られている中、効率的かつ効果的な継承活動のためには、研究者のあいだでノウハウや経験知を共有していくことがますます必要である。

ところが現状では各々の研究者が独自に継承活動を展開しており、十分な情報共有ができていないと言いがたい。そこで本ワークショップでは、実際に琉球列島の言語を対象にフィールド調査をおこなう傍ら、現地の言語の継承活動にも取り組む3名の研究者を登壇者として招き、彼ら・彼女らの取り組みを紹介してもらい、その過程で積み重ねてきた工夫や浮かび上がってきた課題を共有してもらおう。

私たちはこの場を聴衆との活発な意見交換の場にしたいと望んでいる。すでに継承・復興に取り組む方々にとっては、活動の悩みや工夫を共有する機会に、関心はあるが具体的な一歩を踏み出すことができていない方々には、活動を始めるにあたっての不安を吐露し助言を求める機会にしていきたい。

報告者1 青井隼人(東京外国語大学AA研／国立国語研究所)

報告者2 當山奈那(琉球大学)

報告者3 横山晶子(日本学術振興会／国立国語研究所)

報告者4 小川晋史(熊本県立大学)

指定討論者 山田真寛(国立国語研究所)

- 構成
1. 趣旨説明(5分)
  2. 事例報告(60分)
  3. デモンストレーション(15分)
  4. 意見交換(30分)
  5. アンケート(10分)

謝辞 本ワークショップは、以下の研究プロジェクトからの支援を受けている:

- 国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
- 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所基幹研究プロジェクト「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築(LingDy3)」